

令和3年度 「市民と議会の対話集会」 記録

—— 産業建設委員会 ——

■開催日時 令和3年11月19日（金） 15:00～16:30

■開催場所 中津川市環境センター 2階大会議室

■懇談先 中津川市観光連絡協議会（6名）

- ・（一社）中津川市観光協会代表
- ・馬籠観光協会代表
- ・加子母むらづくり協議会観光専門部会代表
- ・やさか観光協会代表
- ・（株）付知町観光協会代表
- ・蛭川観光協会代表

■出席議員 産業建設委員会委員

島崎保人（委員長）、糸魚川伸一（副委員長）、鷹見信義
大堀寿延、岡崎隆彦、吉村浩平、牛田敬一

■懇談テーマ 観光の現状とアフターコロナに向けて

■懇談内容

【コロナ禍での観光の現状】

●付知町観光協会代表

付知の観光は付知上流部、滝めぐり、キャンプ場運営などを行っている。コロナの影響で団体客がほぼ消え、全て減収した。野外の家族単位の利用は平年並み。キャンプ場はコロナ対策をしながら進めればやっていたいのではないかと考えている。付知には、いろいろな観光があるので我慢強くやっていきたい。リニアを見据えてそれぞれの地区がバラバラでやっていくのではなく中津川観光協会として一本にまとまって中津川全体の観光を考え協力しあって進めていきたい。

●やさか観光協会代表

現状について大きく2つ。イベント関係と商店等の関係。

イベントは花馬まつり、そばの花まつり、夕森公園のもみじまつりの大きな祭りが、2年連続で中止となった。この中で一番困っているのが花馬まつり。花馬保存会の下に委員会が3つあり、28の自治会で委員を出し担当者を組んで申し送りしている。今年委員長をやった方は来年辞め、今年副委員長をやった方が来年委員長となる。2年中止になると次の年は全て素人がやることになる。また、中学生がお囃子をやってくれているが、上の学年の子が下の学年の子に教えるようになってきているが、2年開催できなかったことで、夏休みに20日練習したが相当な負担になってくるのではないかと心配している。

管内に3つの道の駅がある。移動の自粛などで全体の売り上げが減っている。きりらは、レストランをやっているが夜の収入が大きく減り補償金でこらえている。12月から指定管理者を地域でやっていこうと考えているのでお願いしたい。

●中津川観光協会代表

阿木・坂本・福岡、あと中津川の街中も含め、具体的な観光地があるわけではなく、何をもって観光かということ。菓子屋は観光かということ、私たちは観光だと思っている。定義上、コロナの補助金の関係から外されてしまっており、土産物屋だけが観光だととらえられている。その線引きの関係で菓子屋は補助金も貰えず自助努力で頑張っている状況である。菓子屋はいいだろうと言われるが、秋の栗きんとんに期待するのみ。

マロンパークを中津川観光協会として指定管理を受けさせて頂いている。マロンパークは市の管理なので、コロナの関係から開園中止との指示があり、1600件の予約が無くなった。行政サイドとして中止せざるを得ない状況のなか、収穫した栗を何とか販売した。エリアは屋外であり、家族で来ているので、なんでもかんでもコロナでストップということではなく、少なからずのルール（室内なのか、室外なのか等）を決めて、対応してもらえれば助かったなと思っている。西山で栗園をやられている企業は大盛況であったが、それを目の前に私たちは何も出来ない。指定管理の問題もあるが、コロナにおける対応で、全てがダメということではなく何らかの緩和策等の選択肢をもらえると良かった。

コロナが少し落ち着いてきたこともあり、菓子祭りの開催までこぎつけたが、客数は少なかった。しかし、やり続けるということが大切で県・市とも模索しながら開催できた。いろいろな方法があると思うので、なんでもダメということではなく、何かの妥協案を皆さんで模索できればと考えている。

●馬籠観光協会代表

馬籠は観光地だが、観光地の位置づけが難しい。飲食、喫茶、土産、農業とすそ野が広い。コロナによって観光地がダメージを受けている。もう2年近くになり、かなり厳しい状況。この秋、多少売り上げがあると思っていたが、8月終わりから9月にかけて開店休業になり、11月になって恵那と中津川でコロナが出で心配していた。馬籠はコロナ感染を出していない。観光地はイメージ産業なので出さないように皆で頑張った。

観光地の飲食について、昼間の飲食で喫茶店だけでやっているところと、夜お酒を出しているところの支援の差が相当あった。夜お酒を出していたところには協力金が出たが、今回初めて馬籠で協力金の第7弾で昼間お酒を扱っている所が協力金の申請をする。岐阜県の協力金は休んだ所には必ず出してもらいたい。

神坂スマートインターは、来年3月に開通予定だったが、未だに予定が明確になっていない。一日でも早く作ってもらいたい。それまでは、歯を食いしばって頑張る。現在、スマートインター本体工事が開始され近くに学校もあるため交通安全上の問題等もあるので早く終わってもらいたい。スマートインターが出来たら、みやさか活性化計画をどう進めるか、下呂・高山・阿智・飯田等を含めた広域連携を行う上でもスマートインター完成に向けてお力添えをお願いしたい。

○岡崎委員

スマートインターチェンジは、市単独で全てやるわけにはいかない。例えば道路協議などがあり多少遅れることもあると思うが、早くスマートインターが出来て観光振興に繋がることが必要と思うので、早く進められるよう進言をしていく。

●加子母むらづくり協議会代表

加子母は観光協会がなく、加子母むらづくり協議会に観光部会を設けて活動している。北から言うと、かしも産直市、道の駅かしも、加子母森林組合もくもくセンター、明治座と拠

点が大きく 4 つある。コロナの影響で明治座に団体バスが来なくなった。前年度比 90%減。馬籠一加子母、下呂一加子母のバスが全く動かなかった。農産物の直売所、森林組合の木工所もコロナの関係で減収。

一番大きく減収しているのが明治座で平成 27 年にくれ葺き屋根に復元してもらい岐阜の宝ものにしてもらった。来ていただいた方には、このくれ葺きの木が 20 年程度で腐ってしまうので、次の屋根替えの際に使えるように 1 枚 500 円で買ってもらい年間 5000 枚(250 万円)位になっていた。市の方で設けている修繕費を基に地元の職人さんに修繕してもらっていた。しかし、令和 2 年度では 392 千円と寄附がかなり減少し、くれ板の事業が継続できるか心配している。

加子母には大きな宿泊施設がなく、渡合温泉・挽家といった 2 件の宿泊施設と他にも 2 件の農家民宿があったが、高齢化・コロナの影響で廃業した。農林業の村で観光業だけで生活を営んでいる人は少ない。今後も支援をお願いしたい。

●蛭川観光協会代表

宿泊施設、ゴルフ、遊園地、観光地がある。過去のリーマンショックとは比較にならないほどの甚大な影響を受けている。紅岩山荘も休業となってしまった。遊園地も客が少ない状況が続いている。蛭川は恵那と隣接していて恵那の観光協会に加入している事業所もある。恵那は恵那旅得チケットといって 15,000 円で 19,500 円のクーポンがあり、緊急事態宣言中は中止していたが、緊急事態宣言が明けたらすぐに再開を始めた。恵那はフットワークが早く、軽い。お客様から恵那ではやっているのに、中津川ではこうしたものはないのか?と声を聞くのでフットワークの軽い施策をお願いしたい。

○島崎委員長

蛭川の話で、恵那ではどうしているのかももう少し具体的に教えていただきたい。

●蛭川観光協会代表

3,000 円のチケットで 900 円のプレミアムが付くというもの。お土産屋さんや観光地で買ってすぐ使える。お客様が恵那に行こうか中津川に行こうか迷った時にはその差が大きい。恵那の素早さ・柔軟性がとても大切と思う。

【観光資源の掘り起こし磨き上げ】

●付知町観光協会

6 団体の一本化に向け、それぞれ全体であぶりだしをやっている。観光資源の掘り起こし、情報発信、連絡を密にして、同じ方向でやっていくことが中津川の観光振興に繋がると考えている。中津川観光協会の一歩化に向けてご協力を仰ぎたい。

●やさか観光協会

良い言葉であるが、これをやろうと思うと大変で難しい。2つのことを考えている。

ひとつ目は、新たなウォーキングコースの開設。馬籠まで公共交通機関で来て頂いて、落合宿に寄り、国道まで降りて、乙姫岩や坂下の石仏を見て、きりらでそば体験をして坂下駅から帰って頂くということを研究している。その途中、山口の登坂車線を登ったあたりで中央アルプストンネルからリニアが出てきて、第 1 木曾川橋梁、瀬戸トンネルに入るが、フードがないことからリニアが走る姿が見える国道となる。落合から山口までの間約 1,000 メートルに歩道がなく、今工事をやっているが全て完了するのはいつになるか分からないとのこ

とであった。歩道の工事もリニア開業に遅れてしまっただけでは困るので、議会からも早くやってもらえるよう働きかけてもらいたい。

もう一つは、馬籠観光協会さんから出たスマートインターの関係ですが、坂下・川上を単なる通過点にはしたくないということで、みやさか活性化協議会でいい案はないかと考えている。関東からスマートインターを利用して、飛騨方面に向かって頂く方には、きりら坂下が最初の道の駅になるため、ここで何とかお客さんに寄ってもらえないかと考えている。2週間ほど前、坂下高校の運営協議会で道の駅の情報発信の部分を担当していただけないかとお願いした。なぜかと言うと、昔は観光バスで温泉に行くというのが主流であったが、今は若い人たちのグループや家族旅行、高校生に近い年代の人達が、体験を求めてくるような旅行になってきている。高校生の若い考えで情報発信することで、きりら坂下に寄って頂いた方が、ここで情報を得て、下呂へ寄ったら、帰りは苗木城に寄って頂くとかという案内ができないか考えている。

後ほどスマートインターの費用対効果について議員の意見を聞きたい。

●中津川観光協会

中津川には、苗木城・富士見台・恵那山等観光資源が十分あると市長や皆さんも言っているが、掘り起こして終わりなので、お金が生まれにくい。観光産業というところまで考えて頂きたい。苗木城が0円で延々と続いていることがおかしいし、苗木城に中津川観光連絡協議会として踏み込もうとしたら、苗木城のまち協があり間違いなく陣取り合戦が始まる。苗木城としても5~6団体ぐらいがあり、そこにも配慮が必要で掘り起こせない。

そこで、行政が頭(トップ)に立ち、「お金を生んで下さいね。」「そのために投資します。」と具体的にあれば、苗木城・付知川・富士見台と一個一個、つぶしていけると思う。観光地と呼べない理由は、お金を直接生んでいないからである。馬籠の街道であればお金が落ちているかもしれないが、中津川宿の中山道沿い、商店街となると観光と言い切れるかどうか微妙である。中山道自体、観光資源と呼べるし、中津川市内でも数カ所の宿場があり、妻籠に繋がっていく。十二分に一日楽しめるだけの観光エリアであるが、お金が落ちない。お金をどう落とすかが観光産業と言えるように、そこまで踏み込み自助努力で自走できるところまで補助できないのかと思います。観光を物事の視点を変えていただただけで対応が可能かなと思う。少しずつでも前に行ければありがたい。

●馬籠観光協会

観光と農業は結びつきがあり、すそ野が広い。観光農業を移住定住と結びつけることができる。そこで住んで守ることが基本。需要というところで是非考えてもらいたい。観光立国があり、観光立県があり、観光立市が上がっていない。リニアができるので合併した市は観光資源が多い。中津川でも一生懸命やってもらっているが観光人材が薄い。リニアが来るのになかなか前に行かない。市長には観光立市の宣言をしてもらいたい。

●加子母むらづくり協議会

今週末、岐阜の宝ものに加子母の乙女溪谷・付知の付知峡・川上の夕森溪谷の3つを認定したいということで現地の審査があった。ふもとのキャンプ場は森林組合が経営している。今はこのコロナ禍で激減している。冬は滝が全面氷結となりガイドツアーも取り組んでいる。乙女溪谷を見学してもらいながら、小水力発電所も見学してもらい、環境保全・再生可能エネルギーの活用など教育メニューを作りながら進めている。小郷という地区ではトマトや肉

牛の生産が盛んなところである。

明治座は、地域おこし協力隊がおり任期は3年。彼女が全国各地の芝居小屋を見ながら中津川の文化財の掘り起こし、磨き上げを行っている。「隈取」の体験であるとか舞台裏の見学などのコンテンツの情報を発信している。また、芝居小屋をいろいろな形で使用できないかe-スポーツなどをスクリーンに映してやってみてゲーム大会をやってみたりした。自分たちの視線だけではなかなかこういう発想は出てこない。しかし、外部の視点を取り入れることでこうした人材を育成していくことで地域の皆さんもやる気を起こすことにつながっている。タイアップしながら、中津川全体として長時間楽しんで頂ける観光地づくりができれば良いと感じている。

尾張藩連携で名古屋城、尾張藩の関連する自治体で取り組んでいる。尾張藩を理解してもらう重要なスポットとなるので維持保存についてご理解いただければと思います。

●蛭川観光協会

観光資源の掘り起こしとは、事業にはなっていないが可能性があるものの発見だと思っている。市民からの意見や情報を有効に使うことが大切だと思っている。

笠置山は中津川市と恵那市に渡っているが、恵那市側ではロッククライミングが盛んになっている。そのロッククライマーの中には中津川に住んでいる方もおり、中津川市側でも調査のため入山したいとのことで蛭川の観光協会に話があった。自分は良いことだと思い、蛭川総合事務所に繋がったところ、総合事務所側では観光協会に相談もなく断っていたとのこと。理由は総合事務所の判断としてロッククライミングの人口も少なく、メリットも少ないということだった。調査段階での話であり、行政にお金もかからない話であったので本当につかり残念であった。行政は市民の声に面倒くさげならず真摯に取り組んでいこうという姿勢を大事にしてもらいたい。

魅力的な観光地は、食べる・泊まる・遊ぶの3要素が大切。今年に入って中津川に来る観光客にアンケート調査を行ったところ、日帰りのお客様に比べ宿泊客では5倍位消費額が違いうため、この地でお金を使ってもらうためには泊まってもらうことが大事だと思う。リニア開業後の首都圏の方を誘客し観光消費額を増やすためにも泊まる必要があると思う。加子母地区での話にもありましたが、中津川でも民宿が廃業しているということがある。魅力的な観光地を維持するために宿泊施設に人的支援が必要だと思う。また、古い施設などを使う場合は消防設備などの設備投資の補助が必要であると思う。

○大堀委員（司会）：

議長がいるので、リニアを活用したまちづくりについて、議会の考えを聞いてみたい。

○岡崎委員（議長）

やさか観光協会からも意見があったリニアを活用したまちづくりは大変重要で、どんどん伸ばしていきたいと議会も考えている。心配しているのは、まちづくり計画の中で何ができるかということがはっきり見えていない。馬籠観光協会がおっしゃっていたが、工業はある程度できているが観光が主体となって産業を伸ばしていくことになる。農業ですと加子母・付知では新規就農者も増えている。ですから移住定住の面は、出来上がっているのかと思います。観光と移住定住を結びつけるには、特にスマートインターは観光の拠点になってくる。濃飛横断自動車道も両方使いながら、観光を伸ばしていくということがこれからの中津川の大切な産業になってくる。議会としても執行部にしっかり伝えていきたい。個人的には、静

岡での反対の動きでリニアが遅れる可能性があり心配していますが、逆手にとって観光資源を更に磨き上げることが必要で、この何年かが大事な年になると思う。議会としても頑張っていきたい。

【情報発信の状況について】

●やさか観光協会

インターネットやSNSの時代。観光協会・道の駅・ホームページ・フェイスブックなど若い人がいるところは比較的進んでいる。しかし、一般商店は外部から見えるお客様はいないので、あまりこうしたところには力をいれてない気がする。観光協会、道の駅が主な発信元としてホームページやフェイスブック等で行っている。

●中津川観光協会

情報発信については、通常の中で行っている。コロナが少し落ち着いている。少しでも外へ出て行って販売を伴いながらやっている。名鉄百貨店、名古屋駅で販売を兼ねてPRした。もともと中津川観光協会の考え方は、来て頂くことが考えとしてある。何回来ていただいても良いという距離感。ただ、リニアやスマートインターはまだないことから名古屋をターゲットに売り出しを考えている。但し、現在は東京も視点に入れて実験的に観光協会も力を入れながら動いている。

プロモーションビデオが中津川市にはない。観光協会としても持ってない。ビデオを作るのに2千万円ぐらいかかる。そんな予算が元々ないので、テレビのニュースで桜、滝などの映像に、〇〇市観光協会提供と出てくるが、我々にはできない。そのためにも、市が持っている映像もすべてを共有し、プロモーションビデオをきっちり作っていくことが大切だと感じている。それには、下呂へ行くルート、阿智村へ行くルート、そういうものを作って行くことを今まで一度もやってない。一度やらせて頂きたい。そこから全員が共有して発信をしていく。発信の能力は持っているが、発信するネタが無いと思う。できれば中津川市観光連絡協議会という枠ではなく中津川市として、きちんとした春夏秋冬、ルートも裏木曾、中山道、馬籠から長野県へ抜ける道、恵那との境界、下呂へ行くルート、加子母から御岳へのルートなどプロモーションビデオでのベースを作らないと発信もしにくい。現状でできることとして、菓子組合の力を借りて秋のくりきんとんを使いながらチラシを配って進めている。

●馬籠観光協会

広域連携という視点でやっていただくと効果があると思う。全体の情報発信がない。観光連絡協議会としても一緒になってPRしていこうと考える。恵那市は結構まとまってやっている。中津川市として強くPRができると思う。リニアができるので中津川市が要になってくる。

みやさかの方では、東山道・中山道を花で繋げようと花桃とか紅葉などの植栽をしている。市議会としても、非常に価値あることなので情報発信をお願いしたい。

●加子母むらづくり協議会

地元の情報を発信していこうということで、カシモールというオンラインショップを開設した。地元の商品を販売するだけでなく、地元の情報もどんどん発信していこうということで、商品や生産者の紹介を定期的に研修しながら情報発信をしてもらっている。以前は毎月、軽トラ市というものを道の駅でやっていたが、コロナの影響で開催を中止したことや、天候が悪く急遽閉めたことがあった。もう少し安定的に、こぢんまりと若い女性たちが作ってい

るようなものとかを販売できないかいうことで、法禅寺というお寺をお借りし、地元ライタークラブの人達によるコーディネーター・企画で、地元のイベントをやって情報発信につながっている。

森林組合が農泊という農水省の助成を頂いてやっていることがある。檜の葉からオイルを抽出して、企業がそれを原料として商品化している。そのご縁で、循環型社会を目指す企業の活動の中に取り入れてもらい、自動車のFIAT社とのコラボで付知神宮備林をロケ地にしてFIATのコマーシャル映像を撮影して頂いている。このように地道な活動をしていると、どこかで見つけてくれることがあることを実感した。

●蛭川観光協会

市が行うものがやはり規模も大きいし、影響も大きいと思っている。しかし、市が行うものとしては紙媒体が多いが、紙媒体だと来てもらう人しか渡すことができない。これから来てもらう人にはインターネット等を駆使した集客が大切だと思う。観光消費額とか明確なものを目標値に設けて取り組んだ方が良いのではないかと思う。KPI（目標を達成するための指標）をオープンにすることで、プロモーションももっとできると思う。行政はそういった数字等をオープンにしていない。観光業者にもわかりやすくしてもらえると良いと思う。目標がないとバラバラになってしまう。

○大堀委員

先程お話を頂いたプロモーションビデオの作成等大変お金がかかる。議員の中でもDX計画を進めて行こうという動きもある。3D化に繋げていくことはできないかと一部の者の間で話をしている。行政へも提言をしてまいりたい。

○大堀委員（司会）

委員の中で、情報発信というところで何か意見は？

○吉村委員

お金に結びつく、苗木城の話が上がるたび、観光の目玉で土産物があると良いと思っている。苗木城に来てくれた観光客が地元に戻って「こんなものを買ってきた！」という話題になるようなものがあると良い。口コミで広がる材料が大切だと思う。

坂下の関係でいうと、スマートインターは活用の幅の広い利用ができるものと考えている。坂下高校は来年から地域探求課ができる。坂下高校もどうしたら地域が活性化できるかを考えている。そうしたことを後押ししながら、活用の方法を研究していきたい。

○大堀委員（司会）

スマートインターの費用対効果については？

○島崎委員長

スマートインターの設置にあたり、地元地域の了解がなかなか得られず、国の事業認可がとれなかったということがあった。

平成25年から平成26年のことであつたと思うが、国からスマートインター設置の可能性調査箇所として全国20カ所の中の1カ所に神坂PAが選ばれた。可能性調査の中に費用対効果「B/C（ビー・パイ・シー）」の調査も含まれており、B/Cが1以上あるという結果が出ている。その後地元地域の理解も得られ国の事業認可へと繋がった。

また、プロモーションビデオについては、市は部分的に進めている。市が求めているのは滞在型の観光であり、観光連絡協議会長さんが言われたように市全体のプロモーションビデ

オが必要だと思う。

本日いろいろ頂いたご意見は、委員会の中でもしっかり協議して、行政へ提言して参りたいと考えている。

以上